

令和元年度 胸部画像精度管理研究会 令和元年初の研究会の報告と、これからの研究会に向けて

公益財団法人北海道結核予防会
札幌複十字総合健診センター診療部
医長 奈良 祐介

精度管理研究会

令和元年12月19日（木）と20日（金）の2日間にわたり「胸部画像精度管理研究会」が開催され、全国の支部及び本部施設から提出された胸部検診のデジタル画像230枚の評価を行いました。

評価結果（暫定）

全国から提出された230画像の評価結果は、A評価40画像（17.4%）、B評価93画像（40.4%）、C上評価96画像（41.7%）、C中評価1画像（0.4%）となりました。昨年度と比較すると、B評価が10%弱減少し、C上評価が15%程度増加したのが特徴的でした。C中評価は読影に支障のある画像、C上評価は、改善の余地がある画像となりますので、是非結果を参考に、自施設でこういったことを改善すれば、より良い画像を読影医に提供できるのか、大いにディスカッションして頂く材料となれば幸いです。A評価、B評価の増える画像提供、または、画像を選ぶ目、というものを養って頂きたいと思います。

評価に対しての所感

デジタル画像のみを評価するようになり、階調処理・周波数処理による画像処理、また、放射線の線量管理において低線量で撮影する施設が増加しているため、処理のバランスが適切でないと、評価が2ランクくら

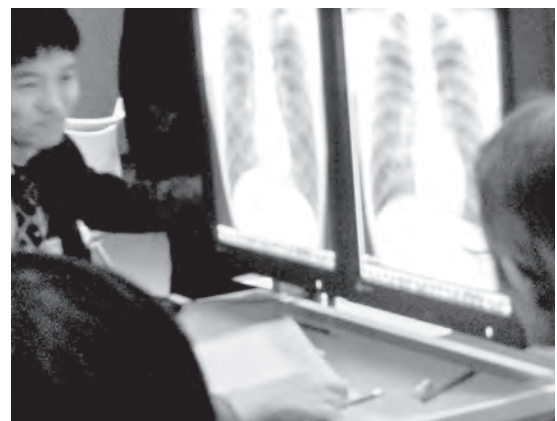
い下がってしまう画像が散見されました。画像処理に関しては、各メーカーからの助言を聞ける機会でもあり、処理に関する改善策のコメントが記載されているものもありますので、是非参考にしてください。ただし、技師さんに求められる撮影時の基本のポジショニングや、良い画像を「良い画像」と判断出来る目も養って頂きたいと思います。引いては読影医が読みやすい画像を提供することが出来ることに繋がります。

最後に

この研究会は、画像の評価はもちろんですが、2日間、胸部デジタル画像に浸かるので、医師・技師も非常に目の養える勉強会になるものと考えています。私も班長として画像評価と技師の指導をさせて頂いていますが、1日目と2日目では、参加された技師の読み方が大きく向上しているので、毎年ながら、参加してよかったと感じております。特に、医師1人1人の「好みの画像」「読みやすい画像」というものがあるので、それに合わせて画像を提供している技師には、私も頭が下がります。1日目終了後の懇親会では、各支部の体制・近況などを情報共有出来る、非常に有意義な会でもありました。これからも、この研究会が益々良いものとなりますようお祈り申し上げます。☺



胸部デジタル画像を評価している様子（筆者中央）



胸部デジタル画像